令和7年度「総合問題(言語文化学科)」出題意図・解答例

※【出】は「出題意図」を，【解】は「解答または解答例」を表す。

1 【出】日本語のエッセイをもとにして，主に読解力と表現力を問う。

問1 【出】漢字および語彙の理解力と知識とを問う。

【解】(a) 絶 (b) 内実 (c) 表情 (d) 風潮 (e) 破綻

問2 【出】筆者の考えを正しく理解し，それを的確に説明することができるかを問う。

【解】大きなカテゴリーから次第に小さなものへと限定していく日本流は，日本語の物事を探索し，帰納し，協調しつつ不確かなものから徐々に結論を創造していく論理にかなうものだから。

問3 【出】筆者の考えを正しく理解し，それを的確に説明することができるかを問う。

【解】私たちはぼんやりとしたまどろみのような世界の中に在って，ひとたびそのどこかに注意を向け，それを意識化するプロセスをたどって命名するに至る。この命名したものを「～は」と表現することによって西洋語の主語にはない「知覚」から「言語」への移行を示すことができている点。

問4 【出】文脈を正確に確認しながら文意を理解することができるかを問う。

【解】Ⅰ：イ Ⅱ：ウ

問5 【出】筆者の主張の趣旨を正しく理解したうえで，具体例を挙げて論理的に表現することができるかを問う。

【解】《理由》西洋語の論理構造は「AはBである。なぜなら～であり，～であるからだ」となっており，限定的，演繹的，対立的とならざるを得ない。こうした論理構造は国際会議のような場で結論の正誤を戦わせるのに向いている。一方日本語の創造的かつ協調的な論理構造は，論争を前提とする対立的な場には不向きであるから。

《考え》国際会議の場で話題となるテーマは，経済，外交，軍事といった国際間の問題だけでなく，環境，資源，民族問題，ジェンダーといった国境を越えたテーマも存在する。とりわけ後者のテーマは，諸要因が複雑に絡み合い正誤といった単純化した論理を用いて解決することは困難である。したがって，創造的，協調的な特性を持つ日本語の論理構造を用いて議論してみるのも一考の価値があると考ええる。

出典 加賀野井秀一 『日本語は進化する』 (一部改変)

2 【出】 英文のエッセイをもとにして、主に英語の読解力と日本語の表現力を問う。

問1 【出】 文の構造や他の語句との関係から適切な前置詞を選び出せるかを問う。

【解】 A. for B. on C. as D. into E. of

問2 【出】 直前のパラグラフの内容を理解したうえで本パラグラフの内容との関係づけをおこない、空欄に適切な語句を選択できるかを問う。

【解】 ウ

問3 【出】 前後の文脈から英語の慣用表現の意味を正しく推測する力を問う。

【解】 エ

問4 【出】 英文の説明を正しく理解したうえで、その具体例を自分の経験から見つけ出し、日本語で表現する力を問う。

【解】 ある医者は都会の大病院を辞めて故郷の小さな病院に移った。収入は減ったが、地域の医療を守ることにお金には代えられない意義を感じている。

問5 【出】 「the 比較級, the 比較級」の形のやや複雑な英文について、適切に理解し日本語に直せる力をみる。

【解】 あるものから得られる効用が大きいほど、人はそれにより多くのお金を払ってもよいと思う。

問6 【出】 文脈を正しく理解したうえで、問いに対して英語で的確に表現する力を問う。

【解】 A. I will be fluent in English.

B. I will have to give up dating with my boyfriend during that time.

出典 The Bank of England, Can't We Just Print More Money? (一部改変)